

令和4年度 中期計画の進捗状況について（概要）

1 中期計画の進捗状況に係る検証について

- ・評価センターでは、中期計画に係る令和4年度の「評価指標の年度目標」及び「本学独自の年度計画」（以下「年度計画」という。）の進捗状況について、各部局から提出のあった「中期計画の進捗状況に係る点検シート」の報告を基に、評価センター作業部会及び専門部会において検証を行い、各部局の自己評価と検証結果に相違があった計画については、点検シートの追記を依頼して、評価センター専門部会で再検証を行った。その結果を各部局へフィードバックし、次年度以降の年度計画の設定の参考とすることで、中期計画の達成を目指すものである。
- ・教育に関する中期計画のうち2-1、2-2、3-1、4-1、5-1については、各計画の評価指標が「外部評価による評価結果」そのものであるため、外部評価の結果が出る前の段階であること及び評価指標の年度目標の作成を定めていないことから、評価センターによる検証には馴染まないと判断した。
- ・検証結果については、本概要をもって、評価センターホームページで公表する予定である。

2 検証結果

【中期計画に係る年度計画の進捗状況】

中期計画の区分	中期計画数	進捗状況の4段階評価			
		IV	III	II	I
社会との共創	2	1	1		
教育	7	1	1		
研究	4	2	2		
その他社会との共創、教育、研究	3		2	1	
業務運営	4	1	3 (2)		
財務内容	1		1		
自己点検・評価及び情報提供	1		1 (1)		
その他	1		1		
合計	23	5	12 (3)	1	0

※進捗状況の4段階評価

IV：当該年度の計画を十分に実施しており、優れた実績・成果を上げている

III：当該年度の計画を十分に実施している

II：当該年度の計画を十分には実施していない

I：当該年度の計画を実施していない

※括弧書きは、中期計画に定めのない本学独自の評価指標数で外数

※教育の5つの計画(2-1、2-2、3-1、4-1、5-1)は、検証の結果、評価センターによる検証には馴染まないと判断した。

○進捗状況を「IV：当該年度の計画を十分に実施しており、優れた実績・成果を上げている」と判断した計画は次のとおり。

- (1) 中期計画1-2：グローバル・エンゲージメント戦略の下、中期計画に定められた評価指標の「国際的にインパクトある成果」が年度目標の1件を大きく超える6件であったことを評価した。なお、一年目に中期計画期間中の目標を達成したことになるので、二年目以降については、より社会的インパクトがある成果の達成を目指してもらいたい。
- (2) 中期計画7-1：大学院課程におけるSDGs国際教育プログラムを推進し、世界で活躍する次世代リーダーを養成する計画のもと、一年目の時点で大学院SDGs国際教育プログラムを履修している留学生数が74名(年度目標は50名)となった点を評価した。
- (3) 中期計画9-1：優秀な人材が積極的に学びやすい環境を構築・整備するために、修士課程(博士前期課程)から博士後期課程に進学する学生の生活費相当額受給率が61%(年度目標は55%)となった点を評価した。
- (4) 中期計画9-2：優れた若手研究者の活躍を支援し、自由な発想で挑戦的研究に取り組め、その能力を最大限発揮できる魅力的な研究環境を整備・維持することを目標に取り組んだ結果、若手研究者の論文数増加率が116%(年度目標は105%)となった点で、年度目標を上回る結果が出ていること、文部科学省「研究大学強化促進事業」の事後評価においてS評価を受けたことを評価した。
- (5) 中期計画12-2：大学(アカデミア)の枠を越えた保有資産の共同利用等を推進し、地域・社会・世界に一層貢献するための機能強化を図ることを目標に、研究設備・機器の全学的マネジメントを推進した結果、研究機器の学外利用料獲得額増加率第3期末(令和3年度)比が385%(年度目標は120%)となったことを評価した。

○進捗状況を「II：当該年度の計画を十分には実施していない」と判断した計画は、次のとおり。

- (1) 中期計画10-1：中期計画に定められた評価指標を達成するための具体的な取り組みが行われたが、新規企業治験、自施設の研究者が主導する医師主導治験・特定臨床研究・先進医療Bとして行う臨床研究の件数について、目標値には届かなかった。

3 評価センター 所見

令和4年度は第4期中期目標期間の一年目であり、第3期までとは異なる、年度ごとのモニタリング(中間評価)とレビュー(年度末の評価)を行う方法に改めた最初の年度となった。今回のレビューでは、各部局より提出された「中期計画の進捗状況に係る点検シート」を評価センターの作業部会と専門部会において合議により検証した。1月に実施したモニタリングでは年度目標を下回る指標が1件あったが、今回の計画の進捗状況については、IVが5件、IIIが12件、IIが1件で、Iの評価を受けた計画はなかった。(評価センターによる検証には馴染まないと判断した計画は除く)

教育に関する中期計画2～5については、評価指標「外部評価の評価結果」が確定はしておらず、評価センターによる検証には馴染まないと判断した。そのため、今年度の当該

計画については、企画・評価・総務担当理事の発議により、教学担当理事から外部評価の結果を大学経営戦略会議をはじめとする関係諸会議において、ご説明いただきたい。また、中期計画2～5に係る次年度以降の検証に当たっては、関係各所の評価負担等も考慮の上で改善していく必要があると考える。

全体の振り返りとして、中期目標に係る中期計画及び本学独自の年度計画の設定内容について瑕疵がなければ、年度評価が順調に実施していると判定され続けた場合、4年目終了時点や中期目標期間末の時点でも予定調和的に中期計画が順調に実施されていると思われる。今後、本学独自で設定した各年度計画の評価を積み重ねていくなかで、中期目標期間全体の中でどの程度進捗しているかをシート上で詳らかにできればと考えている。また、今回のレビューにおいては、各部局から提出されたシートに記載のあった内容をもとに計画の進捗状況を確認したが、記載の内容のみでは進捗状況の詳細や自己判定の根拠が十分に確認できず、判断が難しい場合もあった。

評価センターでは、今後、部局向けの実施要領の見直しも含めて、検証方法等について検討の上、改良したい。